

1. 背景

わが国の景気は、金融緩和や円安・原油安を背景に緩やかな回復傾向にあり、製造業においても地域差こそあれ2020年の東京オリンピック開催等により高い操業水準を維持している。反面熟練技能者不足が表面化しており溶接界においても日本の経済基盤を支える溶接技能者の不足が深刻化しつつある。また技術面においては新素材の登場などでより高度な溶接技術の開発が必要となる一方、日本の溶接研究・教育機関は地方を中心に減少しつつあり世界をリードする日本の溶接技術も憂慮すべき状況にある。当協会では溶接界での昨今の著しい環境変化に対応すべく中長期的な視点で以下の活動指針を策定した。

2. 日本溶接協会の活動指針

溶接界共通の認識：

- 1) 溶接・接合は、ものづくりにとって必要不可欠な基盤技術である

溶接界が抱える問題：

- 1) ものづくり分野のグローバル化
発展途上国の急速な追い上げ、生産拠点の海外へのシフト、外国人労働者の増加
- 2) 我が国の溶接分野の現状
国内の溶接関連の研究・教育施設の縮小、研究者人口の減少、企業における溶接技術者・技能者の減少、少子化による溶接関連業務従事者の年齢構成の上昇など

活動指針：

- 1) 産学官の弛みない努力のもと、世界に冠たる溶接・接合技術の維持と発展を支え、製造立国である我が国の発展に貢献する
- 2) 業種別の集まりである専門部会と、研究分野毎の集まりである研究委員会の活動を通して、当該分野の技術開発とその普及・発展、並びに人材育成に寄与するとともに、標準化・規格化を行い、広く社会に普及させる
- 3) 溶接に関わる製品・構造物に対する信頼性を確保するためには、施工管理・非破壊検査などによる品質管理を支える仕組みが必要であり、客観性をもって評価する資格認証・認定制度を継続的に開発・運用する
- 4) 海外との対応、特にアジア諸国との連携強化を積極的に進め、国際交流に貢献するとともに会員各社にとって有用な中立機関として活動する
- 5) 「溶接情報センター」から情報発信を行い、会員への重点支援に加え、社会に溶接接合技術の重要性をアピールするとともに教育・普及活動をインターネットを通して支援する

3. 重点施策

- 1) 溶接技能者不足改善への取り組み（製造立国の堅持、国策の支援）
 - ①溶接界のイメージアップを図る
 - ②若年者および女性の支援・啓発・教育を通じ溶接界の人材確保に努める
- 2) 研究機関減少改善への取り組み（溶接・接合技術の維持発展）
 - ①若手研究者助成金制度等を通じた溶接研究機関（特に地方）への支援
- 3) 産学のより強い連携確立への取り組み（業界メリット創出と若手育成）
 - ①専門部会・研究委員会活動と中立機関の連携強化活動の推進
 - ②溶接学会・軽金属溶接協会等の関連学協会との連携強化
- 4) 認証による社会貢献活動の拡大（製品・構造物の信頼性確保）
 - ①JIS溶接技能者認証に加えISO9606国際溶接技能者認証を開始しサービスを向上する
 - ②既存認証制度の有効性を広く説明し利用拡大を図ることで溶接品質を向上させる
 - ③社会資本整備・長寿命化（社会資本メンテナンス）事業への貢献
- 5) アジアを中心とした海外認証活動を軸に国際貢献を推進する
 - ①日系企業や外国人労働者への認証サービスを推進する
 - ②溶接管理技術者認証制度の海外展開を推進する
- 6) 溶接情報センターをより活用し社会向け教育・普及を推進する（溶接界の底上げ）
 - ①溶接界イメージアップ、若年者・女性向け情報発信を推進する
 - ②教育コンテンツの拡大・推進を図る

